

令和元年6月18日現在

機関番号：35305

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H03246

研究課題名(和文) 官版日誌類に関する史料学の構築および戊辰戦争期の情報と地域に関する学際的研究

研究課題名(英文) Historiographical Study on the Official Journals of Boshin War period and Interdisciplinary Research on the Regional Dissemination of Those Information.

研究代表者

藤實 久美子 (Fujizane, Kumiko)

ノートルダム清心女子大学・文学部・教授

研究者番号：90337907

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究によって、戊辰戦争期(慶応4=明治元〔1868〕年正月～明治2年5月)の維新政府系の出版物である数種の官版日誌(『太政官日誌』『行在所日誌』『江城日誌』『鎮台日誌』『鎮将府日誌』『東京城日誌』)の京都版および江戸・東京版の各調査を通じて、官版日誌に適合的な史料学を確立し、官版日誌の作成過程、交付経路・速さ(京都御所、占領地越後府・柏崎県)、本屋売り捌き(大坂、信州上田)、受容(激戦地近郊十日町市、無風地大町市・木曾福島)、記事をめぐる尾張藩・鳥取藩間の訴訟などから、当該社会の特徴を実証的に解明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本国内322ヶ所の機関に所蔵される官版日誌の多くには京都版、江戸・東京版があり、それぞれ複数版ある。そのため、個人レベルで不可能な、機動的な調査を協力して効率的におこない、調査方法を開発し、文書・記録・書籍に加わる有用な歴史史料として官版日誌を位置づけた。また維新政府の成立過程を戊辰戦争期の情報・メディアの視角から解明するとともに、諸地域への情報伝搬の社会的状況を明らかにした。さらにデジタル情報環境の変化に対応できる専門知識を有し、かつ近代メディア史研究を進める研究協力者を中心に、『太政官日誌』慶応4年=明治元年178号のフルテキスト化を実現し、人文学に限定されない研究基盤の整備に寄与した。

研究成果の概要(英文)： This study surveys the Kyoto and Edo/Tokyo editions of a variety of Official Journals (Dajoukan nisshi, Anzaisho nisshi, Ejou nisshi, Chindai nisshi, Chinjoufu nisshi, Toukei-jou-nisshi) published by the restoration government during the Boshin War (January 1868-May 1869), thereby establishing a historiography congruent with official journals. This also allowed for an empirical elucidation of the characteristics of society at the time as seen from the official journals' production process, routes and speed of distribution (Kyoto Imperial Palace, the occupied areas of Echigo and Kashiwazaki Prefectures), bookstore sales (Osaka, Ueda in Shinshu), reception (areas near battlefields like Toukamachi City, peaceful areas like Oumachi City and Kiso-Fukushima), and article-related lawsuits between Owari and Tottori Domains.

研究分野：日本近世史・書籍文化論

キーワード：日本史 史料研究 幕末維新 官版日誌 太政官日誌 情報論 フルテキスト

1. 研究開始当初の背景

1980年代後半から新たな史料学の構築が目指され、1990年代後半になると書籍史料に光が当てられるようになった。そして幕末維新政治史や同時代の木版新聞に関するメディア史研究のなかで、史料学の必要性を積極的に提言する動きがみられる〔箱石大編『戊辰戦争の史料学』2013年〕。私たちは、科学研究費助成金基盤研究（一般（C））研究課題名「『太政官日誌』を対象にした史料学の構築と戊辰戦争期の社会文化論に関する学際的研究」平成22年度～24年度（課題番号22520699）において研究の第一歩を踏み出した。

2. 研究の目的

維新政府系の官版日誌は官報前史に位置づけられるが、日本近世・近代史研究の狭間であって、研究が著しく立ち遅れている。ゆえに本研究では研究目的を以下の5点に定める。

(1) 所在状況の把握をより精密化する。官版日誌の序開である『太政官日誌』から『行在所日誌』『江城日誌』『鎮台日誌』『鎮将府日誌』『東京城日誌』へと研究対象を広げる。これまでの調査から、長期的な活用・保存や古本屋の介入により現在の史料群秩序が形成されることが多いと判明している。そのため、本研究の所在状況の把握では交付・販売当初の現形態をとどめる1号1冊本に重点をおく。

(2) (1)で明らかになった蔵本の現地調査を実施する。とくに原初的な交付本の蓄積がある公家・大名家に伝来する蔵本を優先的に調査対象に加える。

(3) 前述の科研で作成した『太政官日誌』調査カードを官版日誌調査カードに作り替え、また補助カードの充実をはかる。

(4) 官版日誌相互の関係性を明らかにする基準軸として『太政官日誌』慶応4＝明治元年版第1号～第178号のフルテキスト化検索プロジェクトを推進する。

(5) 幕末維新期の時事情報の流通ルートは、従来の幕藩領主制が構築していた公的ルート、本屋を介した商業ルート、各身分・階層の人びとの主体的な行動として展開していたルート、その複合の存在が指摘されている。そのため、本研究では伝達ルートばかりでなく、伝達範囲と伝達速度を解明する。また受容者から発行側へのフィードバックを視野にいれる。

3. 研究の方法

(1) 本研究の現地調査プログラムは、官版日誌の所在状況の把握、閲覧条件などの確認、モデル的な現地調査、調査カードの作成、現地調査報告書の作成、情報の共有化と分析、必要な事項についての再調査の実施からなる。

2013年3月時点で『太政官日誌』は国内322機関に所蔵されていることが確認されているが継続して所在状況を把握し、適宜、情報を追加した（石田七奈子「『太政官日誌』所在状況一覧表」<https://sites.google.com/view/dajokannisshi22520699/sec1/research1>）。

(2) 本研究の日誌フルテキスト化検索プログラムは、『太政官日誌』（慶応4＝明治元年分）について、情報解析を目的としてコンピュータおよびWEBクラウド環境を用いて、全文検索を可能にするものである。研究開始時は『太政官日誌』の記事概要一覧の作成を計画していたが、サイト上でオープンアクセス化を図るのであればフルテキスト化がより学術上意義があるとの結論にいたったためである。底本は東京大学史料編纂所蔵の橋本博編『維新日誌』第1期第1巻～第3巻（静岡郷土研究会発行、1932年、非売品）を用いる。橋本博氏の著作権満了時期の確定に至っていないが、著作権を制限してこれを利用する根拠は、情報解析を目的とする、部分的な利用に求めることができると判断する（著作権法第30条及び第47条の4と5）。

(3) 研究全般の進め方と研究成果の公開方法は、以下の通りである。

定例研究会の実施。通常の情報交換はメーリングリストを活用し、定例研究会はおおむね年2回開催する。

公開研究会の開催によって、社会への成果還元をはかる。

本研究の成果をWEB報告書によって公開する。また既存の戊辰戦争期木版刊行物研究会HPを用いて関連する研究情報を公開する。

4. 研究成果

(1) 官版日誌調査方法の確立

官版日誌調査カードは2種類あり、調査Aカード（最終改訂は2015年8月23日）は一括された合本刊行本・合綴本の書誌情報を記録するもの、調査Bカード（最終改訂は2017年5月23日）は1号1冊本の書誌情報を記録するためのものである。附属する官版日誌調査カードの

作成マニュアルの最終改訂は2015年10月である。また、石田七奈子作成『太政官日誌』摺消校正チェック項目一覧(最終改訂は2017年3月24日)、山口順子作成『太政官日誌』京都版 諸本比較表(最終改訂は2017年3月21日)・同『太政官日誌』江戸・東京版 諸本比較表(最終改訂は2015年10月3日)を精密化した。

(2)調査A・Bカードほかを用いた現地調査を実施した。調査後は現地調査報告書を作成し、メーリングリストを活用して回覧し、本文確定後にPDF化して、本科研HP上で公開した。調査の実施状況は、WEB報告書に『太政官日誌』を代表とする『官版日誌』の同版・異版・異本調査」マップとして随時示した

<https://sites.google.com/view/kanpannisshi/researchmap>。

年度ごとの調査機関は、以下の通りである。

2015(平成27)年度

横浜市奈倉文庫、横浜開港資料館、慶應義塾大学図書館、龍谷大学図書館、同志社大学今出川図書館、京都府立総合資料館、京都大学総合図書館、国立公文書館、学習院大学史料館

2016(平成28)年度

日田市広瀬先賢文庫、慶應義塾大学図書館、慶應義塾福沢研究センター・東京大学史料編纂所、国立公文書館、東京都立中央図書館、八戸市立図書館、もりおか歴史文化館、宮城県立図書館

2017(平成29)年度

山口県文書館、黒羽芭蕉の館(作新館旧蔵文庫)、新潟県立文書館、奈良県立図書情報館

2018(平成30)年度

福井県立文書館、宮城県松山町、長野県立歴史館、県立長野図書館、国立公文書館、高知県立高知城歴史博物館、福岡市博物館

官版日誌ごとの現地調査報告書(全96件)の内訳は、以下の通りである。

『太政官日誌』京都版(31件) / 『太政官日誌』江戸・東京版(7件)

『行在所日誌』京都版(3件) / 『行在所日誌』無刊記(1件)

『江城日誌』江戸・東京版(10件) / 『江城日誌』太政官翻刻頒行本 = 京都版(9件)

『鎮台日誌』東京版(1件) / 『鎮台日誌』太政官翻刻頒行本 = 京都版(4件)

『鎮将府日誌』東京版(7件) / 『鎮将府日誌』太政官翻刻頒行本 = 京都版(3件)

『東京城日誌』東京版(14件) / 『東京城日誌』太政官翻刻頒行本 = 京都版(6件)

なお、『太政官日誌』を中心に調査した前回科研時の現地調査報告書は72件であり、官版日誌の現地調査報告書は合計168件である。

(3)『太政官日誌』フルテキスト化プログラム

2016年1月からトライアルを実施し、同年2月10日立命館大学衣笠総合研究機構・金子貴昭准教授からのヒアリングを土台に、2016年4月から作業工程を設計し、マニュアルを作成した(初版2016年4月3日、最終改訂2018年9月)。マニュアルに基づいて、学部・大学院生アルバイトに一部分担して、作業を進め、2018年4月に検索サイト

<https://nishifull.boshinjls.net>の構築を終えた。8月まで試験的な検索および最終校正期間とした(詳細は『太政官日誌』フルテキスト検索化プロジェクトについて)参照のこと

<https://sites.google.com/view/kanpannisshi/nishifull>)

本プログラムは官版日誌の関係性を明らかにするための研究基盤の整備を目的として開始したが、その意義はこれにとどまらない。たとえば、518日間続いた内戦状況をマクロにとらえることができる。ワード検索「放火」は越後戦争の長岡・庄内戦争に関してあらわれ、ワード検索「焼失」は雄勝郡・山本郡・秋田郡の悪天候のなかでの民家の焼失を引き出し、戦闘の暴力性を際立たせる(『太政官日誌』フルテキスト検索化プロジェクトについて)。またワード検索「人名」は個人史に、ワード検索「病院」は医療史に踏みこむ糸口となる。加えて本プログラムは言語学・法学・地理学・気象学などの分野での情報解析による新たな知見の提供が想定でき、人文学のオープンテキスト化の可能性を広げるものである。

(4)研究会の開催

2015年度は9月1日(横浜奈倉文庫)・2月10日(同志社大学今出川校舎)に研究会をおこなった。2016年度は8月31日~9月3日(日田市)・2月9日於・慶應義塾大学DMC総合研究センター、都倉武之(慶應義塾福沢研究センター・准教授)「慶應義塾に現存する幕末・維新时期版木について」の講演を依頼し、のち板木観察会を開いた。3月24日には慶應義塾大学三田キャンパス(研究室棟地下2階会議室)で、慶應義塾大学図書館所蔵本の合同現地調査をおこない、その折に研究会を開いた。2017年度は8月28日~30日(山口市) 2018年度は9月22日(東京大学史料編纂所)に研究会を開いた。

(5)研究成果の情報発信・社会還元

公開研究会等を3回開催した。

2015年度：2月11日14時～17時、公開研究会を開催した。講演は金子貴昭准教授「板木観察と出版研究」、コメントは藤實久美子「板木『諸侯要覧』と幕末維新期の武鑑出版」。金子准教授所蔵の板木によるミニ展示をおこない、参加者への解説を得た。

2017年度：3月24日13時～18時、公開研究会「幕末維新期の藩版と官版を考える その政策・印刷工房・頒布」を東京大学史料編纂所大会議室で開催した。講演は高橋明彦（金沢美術工芸大学教授）「藩版研究とその課題」、報告は山口順子「『太政官日誌』長門聚珍版は何処に」（後掲論文参照）箱石大「幕末維新期長州（山口）藩の出版活動 山口県文書館所蔵板木・木活字調査中間報告」である。高橋教授所蔵の漢籍を中心にしたミニ展示をおこない、参加者への解説を得た。

2018年度：9月9日13時～16時30分、ワークショップ「戊辰戦争期の木版刊行物」を福島県立図書館（第1研修室）で開催した。第1部報告は藤實久美子「戊辰戦争期木版刊行物の基礎知識について」、石田七奈子「『太政官日誌』を知る－太政官日誌データベースからわかること」の2本で、その後のワークショップ「『太政官日誌』書誌データの収集方法」において調査Aカード・Bカードなどを用いた書誌データ採取を参加者とともにこなした。第2部講演会では寺島宏貴「『中外新聞』から見る戊辰戦争 報道と論説」が登壇した。

WEB報告書の9本の論考をおさめた。各論考の著者・タイトルは以下の通りである。

1. 藤實久美子「翻刻 書林書留（慶応義塾大学図書館所蔵）」
2. 藤實久美子「京都版『太政官日誌』初号と大坂売り捌きについて 付棚倉藩主阿部家官版日誌の受領記事」
3. 山口順子「官版日誌類の刊行－禁裏御所受領記録を中心にした考察」
4. 松沢裕作「戊辰戦争期越後への法令伝達と官版日誌」
5. 箱石大「『太政官日誌』掲載の戦争届書をめぐる土佐藩・鳥取藩間の訴訟問題」
6. 寺島宏貴「中信地方の家・行政文書としての『太政官日誌』 長野県立歴史館所蔵本より」
7. 山田英明「越後国東頸城郡松代村関谷家旧蔵の『太政官日誌』1号1冊本について」
8. 山口順子「『太政官日誌』長門聚珍版は何処に 萩蔵版局末期の情報環境に求めて」
9. 戊辰戦争期木版刊行物研究会「『太政官日誌』フルテキスト検索化プロジェクトについて」

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

1. 箱石大「口絵解説：慶応四年二月二十日付村上勤兵衛・井上治兵衛請書」(『日本歴史』第846号、2018年11月) 査読無
2. 箱石大「庄内藩の戊辰戦争」鶴岡市立図書館・鶴岡市郷土資料館編『通史の中の庄内 鶴岡市立図書館百周年記念歴史講演会講演録』2017年3月、165-189ページ、査読無

〔学会発表〕(計1件)

1. 箱石大「朝鮮総督府による朝鮮史料の収集と編纂」(国際シンポジウム「植民地朝鮮における帝国日本の古代史研究 近代東アジアの考古学・歴史学・文化財政策」於・早稲田大学、2016年4月23日)

〔図書〕(計4件)

1. 箱石大「維新政府による旧幕藩領主の再編と戊辰戦争」奈倉哲三・保谷徹・箱石大編『戊辰戦争の新視点 上 世界・政治』(吉川弘文館、2018、84-107ページ)
2. 箱石大「近世朝廷の武家伝奏から維新政府の弁事・弁官へ」神田裕理編著『伝奏と呼ばれた人々 公武交渉人の七百年史』(ミネルヴァ書房、2017年、226-255ページ)
3. 箱石大「加賀藩前田家の戊辰戦争届書」東四柳史明編『地域社会の文化と史料』(同成社、2017年、293-309ページ)
4. 藤實久美子「三都の書物問屋」横田冬彦編『シリーズ本の文化史 4 出版と流通』(平凡社、2016年、29-68ページ)

〔その他〕

・講演

1. 箱石大「戊辰戦争期の官版日誌にみる庄内藩」(鶴岡市郷土資料館「戊辰150年」記念歴史講演会、於・鶴岡市立図書館本館、2018年9月29日)
2. 藤實久美子「戊辰戦争期木版刊行物の基礎知識について」(本科研公開シンポジウム「戊辰戦争期の木版刊行物」、於・福島県立図書館、2018年9月9日)

3. 石田七奈子「『太政官日誌』を知る－太政官日誌データベースからわかること」(本科研公開シンポジウム「戊辰戦争期の木版刊行物」、於・福島県立図書館、2018年9月9日)
4. 寺島宏貴「『中外新聞』から見る戊辰戦争 報道と論説」(本科研公開講演会「戊辰戦争期の木版刊行物」、於・福島県立図書館、2018年9月9日)
5. 箱石 大「北越戊辰戦争と維新政府の情報戦略」(新潟県立歴史博物館夏季企画展「戊辰戦争150年」記念講演会、於・新潟県立歴史博物館、2018年7月29日)
6. 山口順子「『太政官日誌』長門聚珍版は何処に」(本科研公開研究会「幕末維新期の藩版と官版を考える その政策・印刷工房・頒布」於・東京大学史料編纂所、2018年3月24日)
7. 箱石 大「幕末維新期長州(山口)藩の出版活動 山口県文書館所蔵板木・木活字調査中間報告」(本科研公開研究会「幕末維新期の藩版と官版を考える その政策・印刷工房・頒布」於・東京大学史料編纂所、2018年3月24日)
8. 藤寛久美子「武鑑と太政官日誌 “監視・禁止” から“喧伝”する政権へ」(於・大阪府立中之島図書館、2016年2月27日)

・ホームページ等

1. 官版日誌類に関する史料学の構築および戊辰戦争期の情報と地域に関する学際的研究 HP <https://sites.google.com/view/kanpannisshi/>
2. 官版日誌類に関する史料学の構築および戊辰戦争期の情報と地域に関する学際的研究 HP 内日誌フルサイト <https://nishifull.boshinjls.net>
3. 戊辰戦争期木版刊行物研究会 HP <https://boshinjls.net/>
・報道関係情報
1. 本科研シンポジウム・公開講演会『福島民報』(2018年9月12日)
2. 本科研シンポジウム・公開講演会『福島民友』(2018年9月12日)
3. 箱石 大『読売新聞』文化欄(2017年3月29日付)

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：箱石 大

ローマ字氏名：Hakoishi Hiroshi

所属研究機関名：東京大学

部局名：史料編纂所

職 名：准教授

研究者番号：60251477